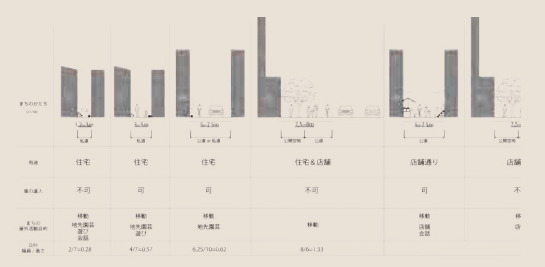




ビル風が都市の自然として日常を彩り
下町らしい再開発地域へと再編する

再開発地域の合間を埋める駅前オープンスペースデザイン

1 町の要素分析



2 設計



下町の再開発地域

風 「都市の課題」ではなく「都市の自然」としての価値

風は、昔から魅力ある自然として親しまれてきた。和歌や俳句で描写されるように、風は四季の香りや音を選び、穏やかな風により、風景は視覚的にも体感的にも涼しさや静けさの表情を見せてきた。しかし高層建築物を建てられる世界になってから、ビル風という都市特有の自然が生まれた。

下町

下町と呼ばれる風情ある街並みが特徴であった地域においても、近年は高層ビルを伴う駅前再開発が活発化している。より便利に安全になって来ている一方で、下町らしい賑わいや特徴を持っていた駅前が、再開発によりどの駅前とも変わらない均質的な空間となっていくことに、私は疑問を感じる。

高密度な空間的特徴



調査・分析

a. 風況解析



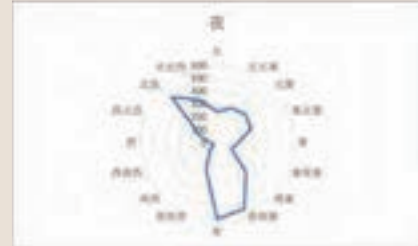
季節・時間ごとの風向と風速

AM : 6:00-12:00 2.421523179m/s



季	12/1	2/28	2.618666667	北西
時	6/1	11/30	2.568666667	北西

昼間 : 12:00-18:00 3.265310948m/s



季	3/1	5/31	3.118666667	南
時	6/1	8/31	2.998666667	南

夜 : 18:00-24:00 2.86787234m/s



東京観測所
期間 : 2017-2022.11
平均風速 : 2.814m/s
平均最大風速 : 10.0943662m/s
データ元 : 気象庁過去データダウンロード
<https://www.data.jma.go.jp/gmd/risk/obsdl/>
(データダウンロード日 : 2023/01/03)

結果 風況

AutodeskCFDによる風況解析シミュレーション結果



通り沿いではいずれの風向でも広場よりも風速が速くなる傾向にあり、2.5m/s以上の風が吹くことがある。また、広場ではいずれの風向でも周辺の建築に平行な風の流れとなり、常時風速 1m/s以上の風が吹いている。

- ・道は滞在には向かない程度の強い風が強い
- ・広場は認識できる程度の風が一定方向に吹いている

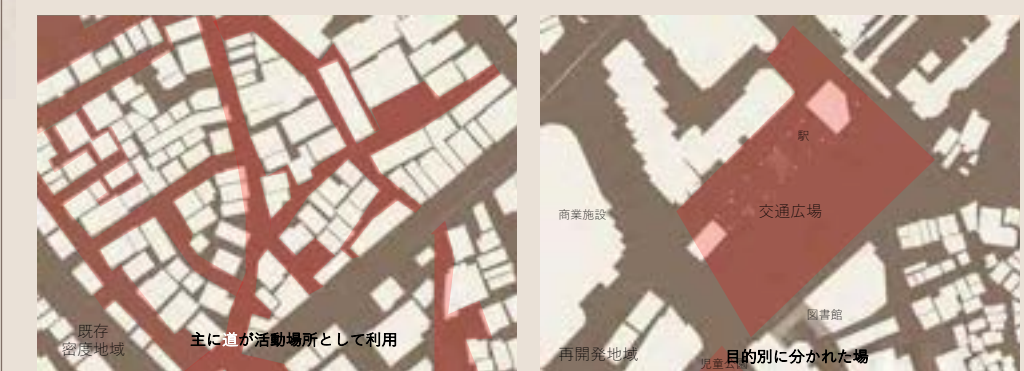
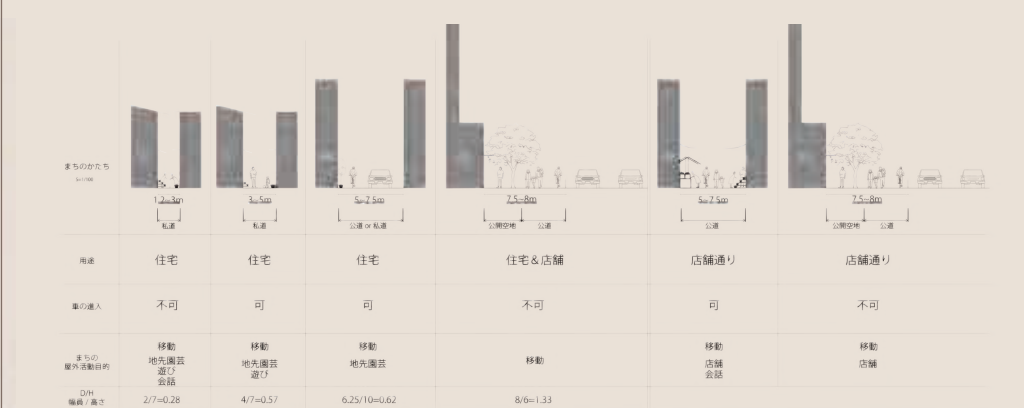
b. 京島の町の変遷



町の変遷

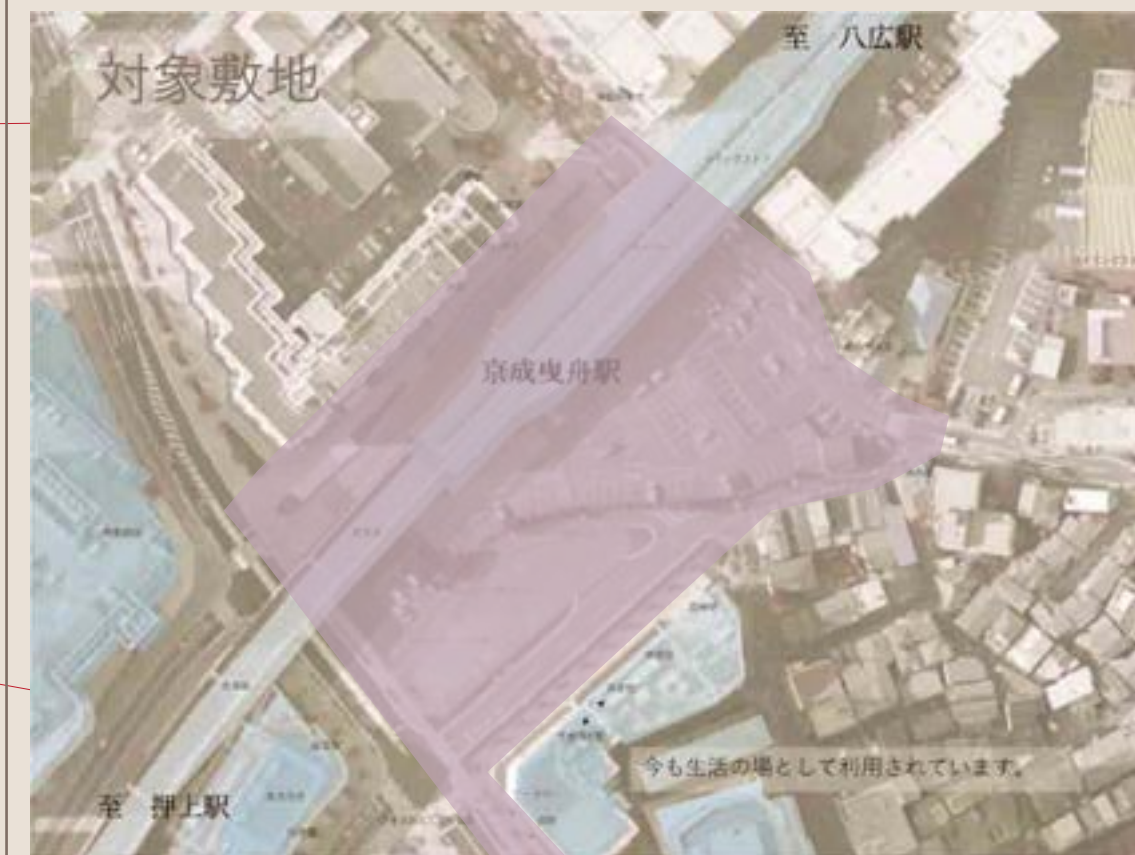


結果 オープンスペースの変遷

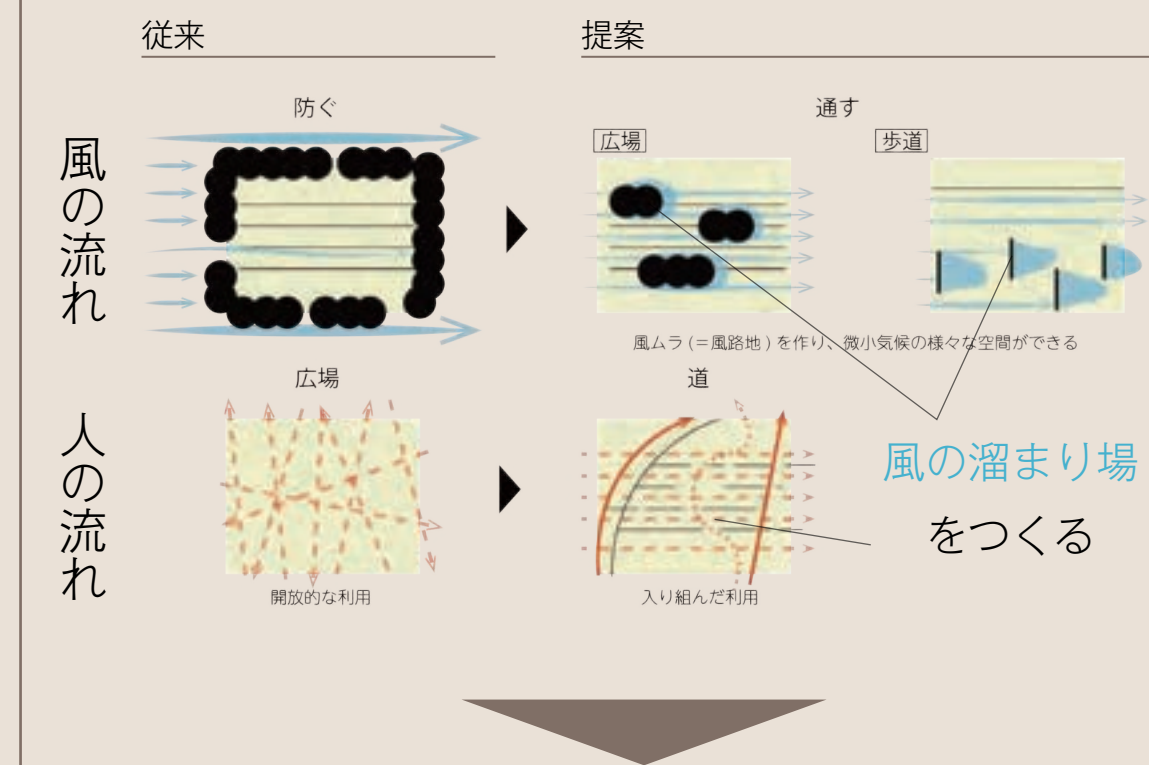


- ・再開発地域では、移動と滞在の分離により地域のつながりが希薄となっている

提案 風路地



再開発地の要素により人一人分の風溜まり空間を作る
それらが集まり路地空間『風路地』ができる

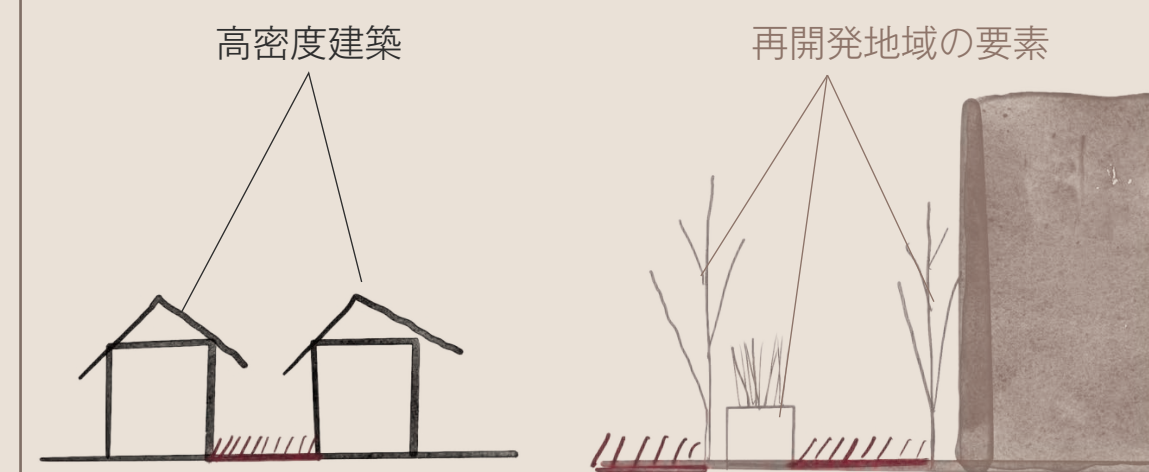


移動の利用のなかに、
風、人、活動の溜まり場ができ、交わるきっかけとなる

地域のつながりが徐々に広がっていく

風溜まりの配置

高密度の建築によって作られたオープンスペースを
再開発地域の要素に置き換えます

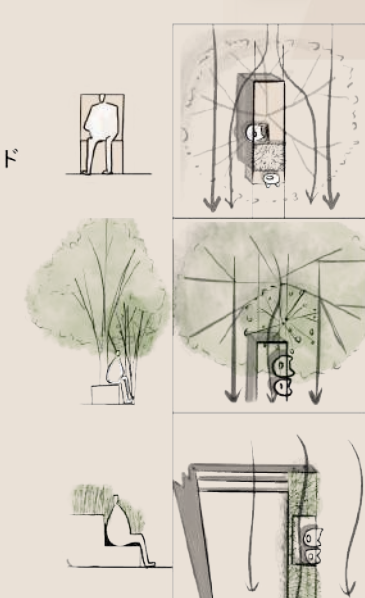


MasterPlan



風溜まりの作り方

- 防風効果
- 大
 - 1: 人工物
コンクリート、地形、シェード
 - 2: 樹木
 - 3: イネ科草本類
 - 小



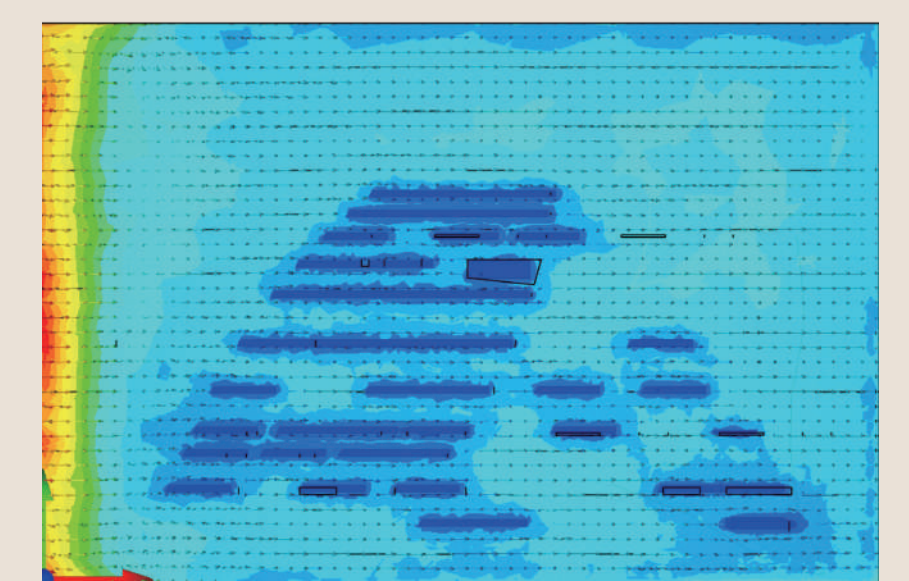
風景効果	植栽計画
影を映すスクリーンとしての風景	エンジュ
ゆれ、影、落ち葉による風景	落葉樹
ゆれによる涼しげな風景	マルバノキ
	落葉樹
	耐水性
	耐風性
	耐陰性



周辺の建築に合わせて植栽も変化していく。

枯れた樹木は、地先園芸や街路樹の肥料へと利用されていく。

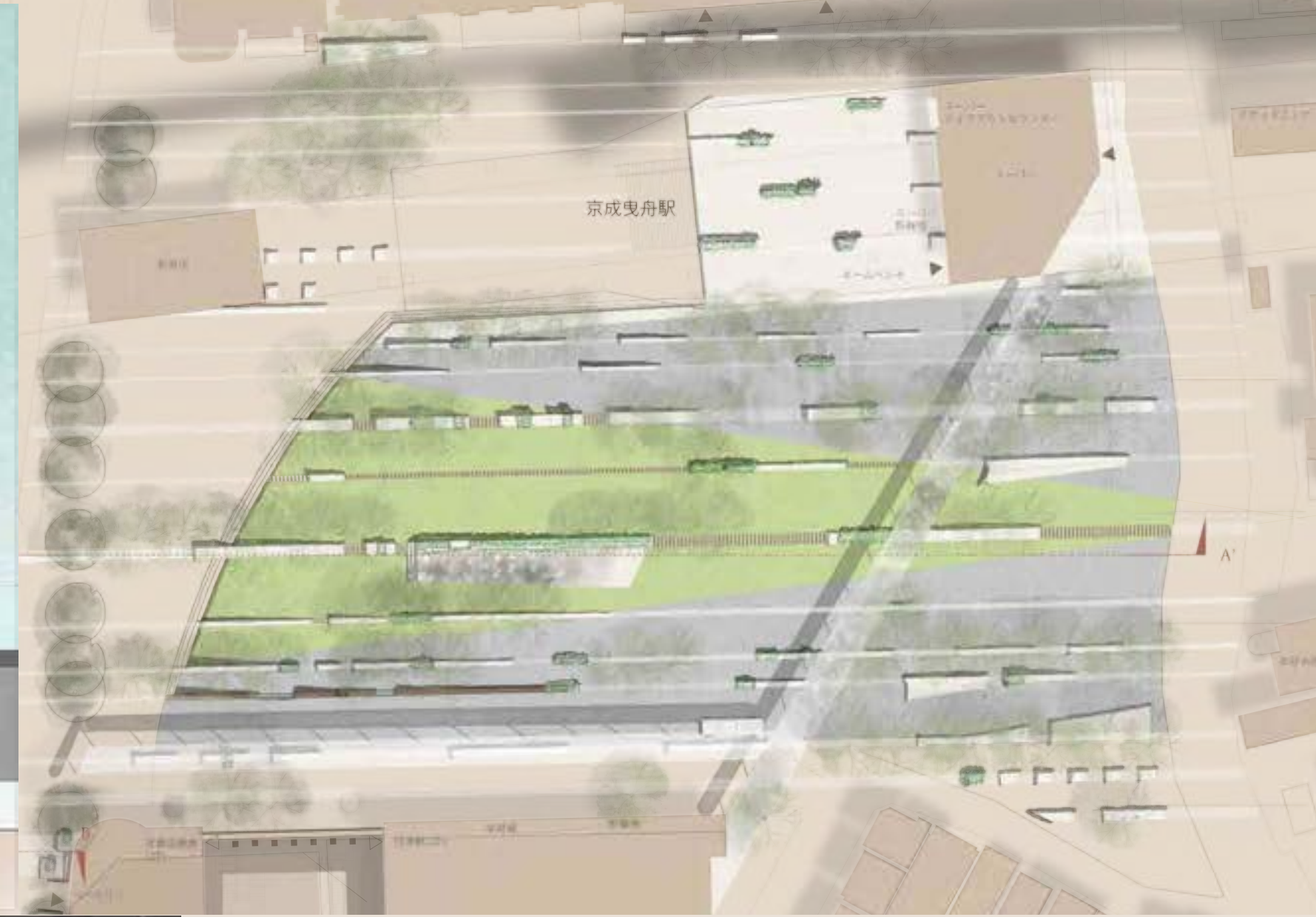
設計後の風の流れ



コンクリートと地形の風溜まりが広場の大きな風の流れを作る。

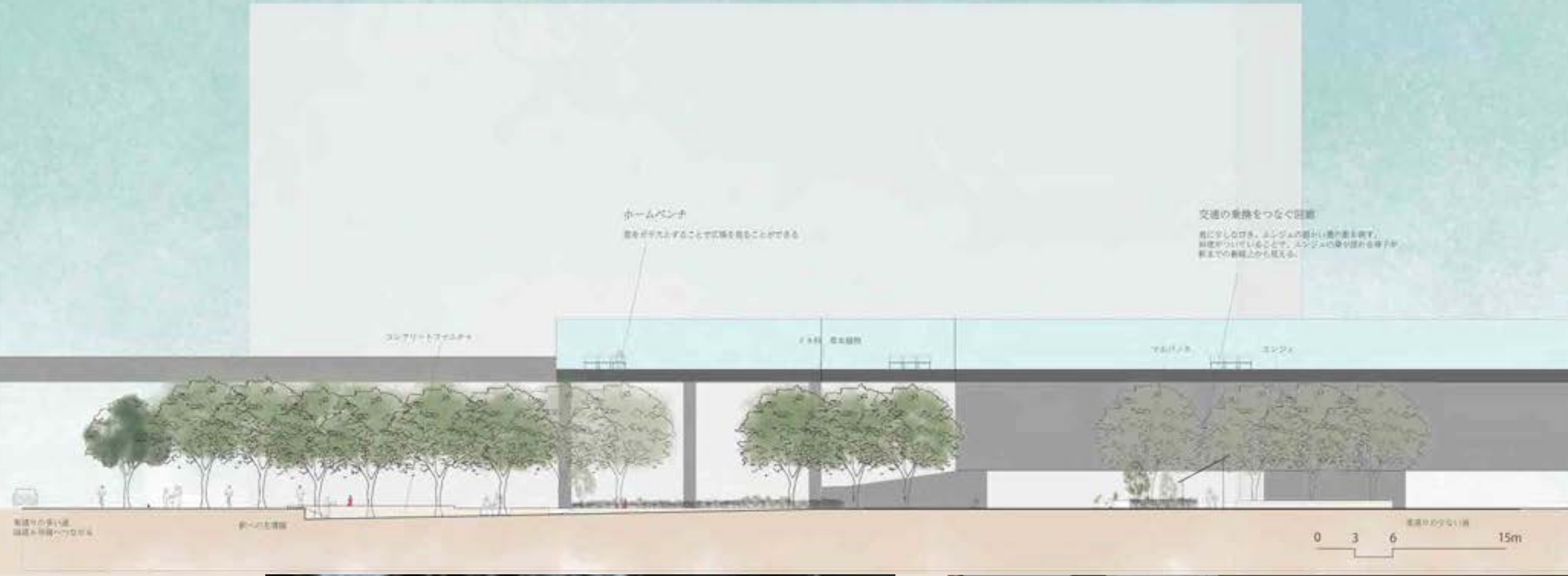
風の流れを均一にしつつ、広場周囲の施設沿いにいくほど風が弱くし、周辺施設の屋外利用を促す。

A-A' Section



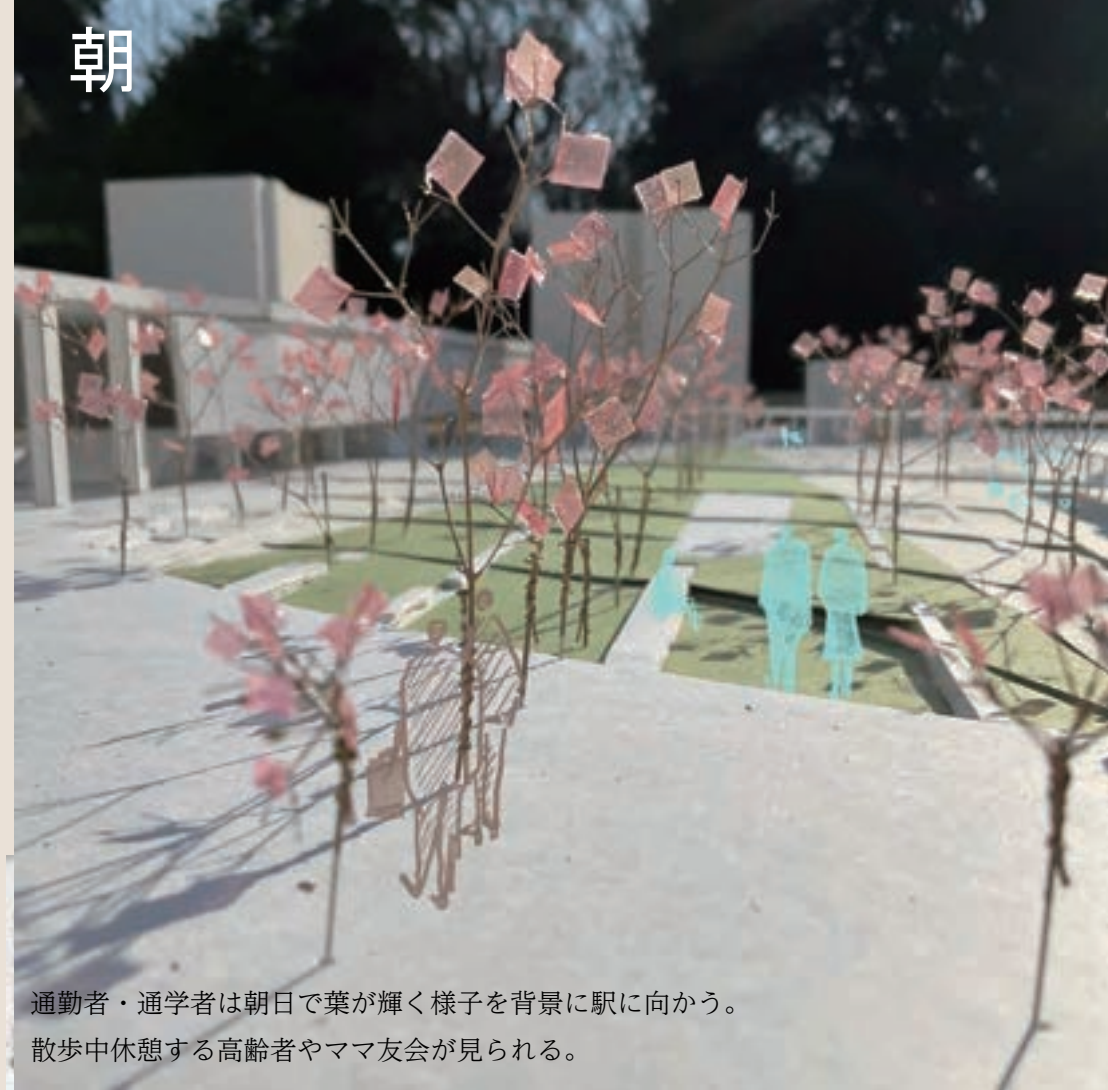
風路地広場

風に風を感じる広場。パージナルな風溜まりにより、小さな憩場所が多数存在する。人々はここを広場としてよりも、道の途中の立ち止まれる場として利用する。



利用風景

朝



通勤者・通学者は朝日で葉が輝く様子を背景に駅に向かう。
散歩中休憩する高齢者やママ友会が見られる。

日常



北東方向からはライン上に風溜まりが立ち並ぶ風景
北東側は車通りが少なく静かな溜まり場となっている

秋



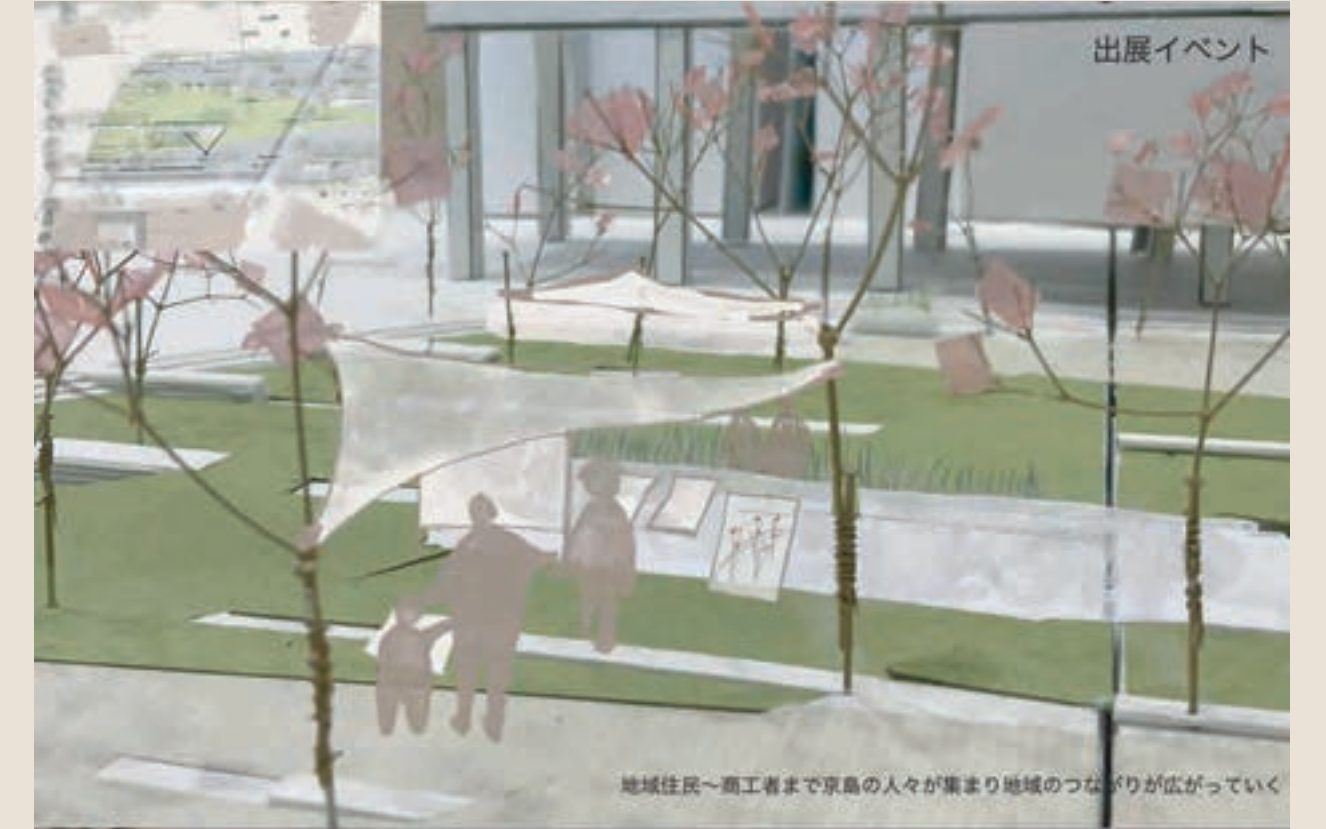
風溜まりで溜地のような入り組んだ風景となる。
赤黄色の落ち葉が舗装の上に溜った溜まり方をして広場の風景を作る。

平日 昼間



広場では、風溜まりが各々の空間を作ることで、
お昼休憩や外作業をするオフィスワーカーや趣味を嗜むおじいちゃんも見かける

出展イベント



地域住民～職工まで京島の人々が集まり地域のつながりが広がっていく

広場では出展イベントも開催でき、
京島のさまざまな職種～一般の方が出展できる。
周辺施設のお店も出店を屋外に出す。

出展者は、自分のエリアに各々シェードをかけることで、各エリアが風溜まり
空間の個性を強め、お店のイメージとなる。
シェードは新たな風を映し出すスクリーンとなる。
高架を通る電車に乗った人々からも見え、
駅前の風路地風景が京島の顔と認識されていく。

イベント時は参加者により風景が作られていき、日常の見る風景から
自分たちで作る風景へと意識し始める。

こうして風路地により町と人の関係が徐々に入り組み、
路地のように住民によって使いこなされるオープンスペースへと変化していく。

風店通り

強い風の吹く通り。
コンクリートやシェードで風を導き、それらが居場所となる。
全く利用されていない店舗前空間の左右に風溜まりができることで、
屋外の利用を活発にする。

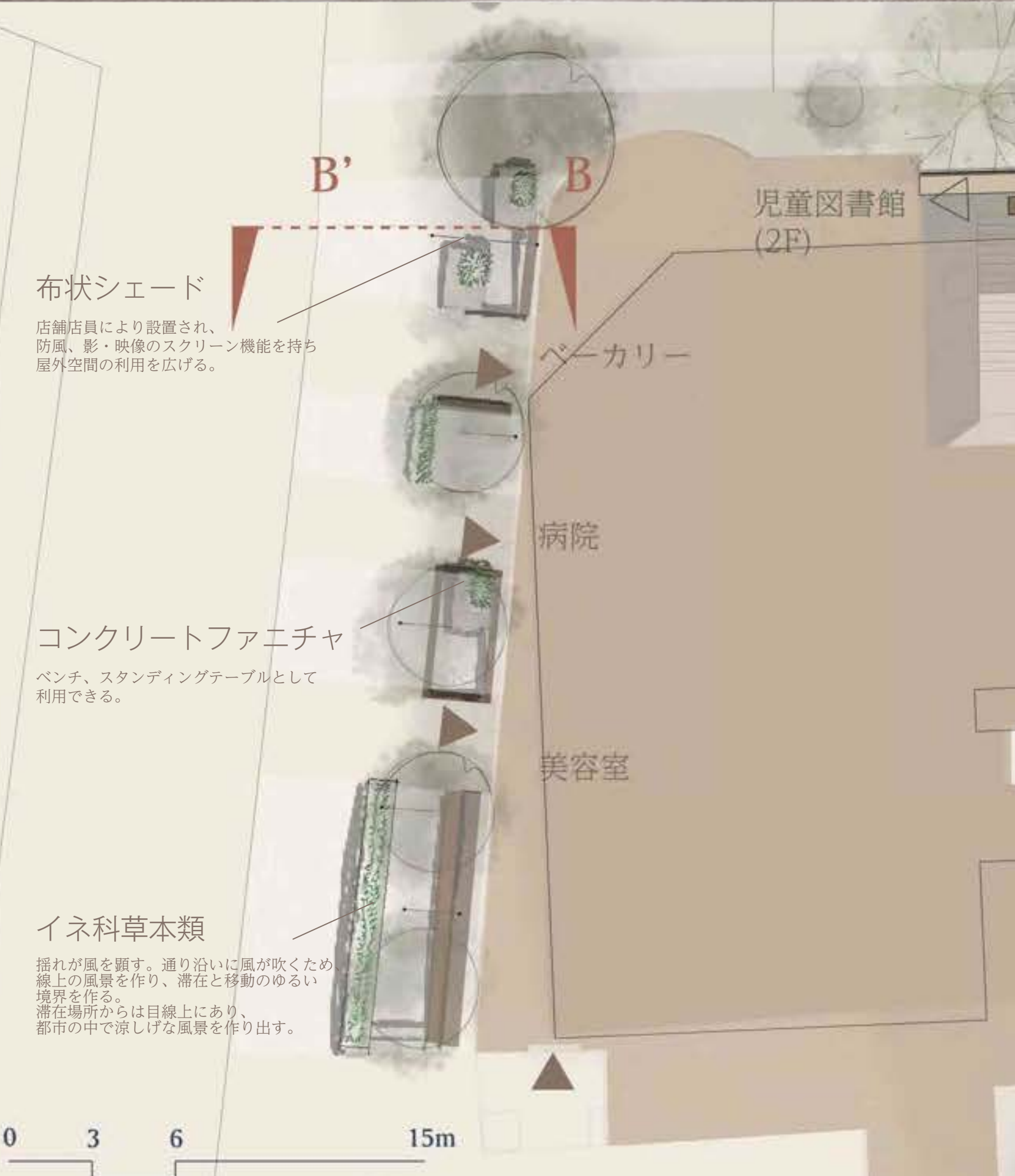
B-B' section



風路地広場



風道通り



利用風景

店舗前の強風通り

少しズレて風溜まりに入ると
そよ風空間

次の用事までの合間の時間を過ごす



店舗前両端にある風溜まりで、
店舗ごとの利用と関係なく、
フラットに利用できる

店舗前通りを曲がると
風が光・影、揺れ、音で
風景化された開放的な風路地広場
が広がる

